令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出　■10月2日(木)提出　■3月13日(金)提出

学校番号	38	大方　高等学校	課程	定

高知県の教育の基本理念	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 （3）多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 県西部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、きめ細かな学習活動や探究活動、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。

スクール・ポリシー

【アドミッション・ポリシー】（入学者受け入れ方針）

○将来の目標や夢に向かってチャレンジする生徒。
○自分の個性や能力、自らの進路を切り開く力を伸ばそうとする生徒。
○高校での学びに意欲と熱意をもつ生徒。
○働きながら学びたい、また、学び直しをしたい生徒。

【グラデュエーション・ポリシー】（育成を目指す生徒の資質・能力）

○社会で自立して生きるために必要な基礎学力を育成します。
○他者を思いやり尊重する心や共感する心を育成します。
○協力し合いながら人間関係を築いていこうとする態度やコミュニケーション力を育成します。
○地域とともに学び、ともに歩み、貢献できる力を育成します。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程の編成・実施方針）

○普通教科を中心としたカリキュラムを編成し、基礎・基本を重視したユニバーサルデザインの授業を行います。
○一人一人の力に応じた学習指導を行い、基礎学力を定着させます。
○通信制との併修、学校外での学修（高等学校卒業程度認定試験、資格取得、就業実務代替、ボランティア活動等）の単位認定等、多様なニーズに対応します。
○入学後に3年間または4年間で卒業するコースが選択できます。
○学校行事や部活動を通して友情や他者を思いやり尊重・共感する心を育てます。
○外部団体と連携し、キャリア教育や多様な生徒に合わせた居場所づくり・仲間づくりを行います。
○地域とともに学び、ともに歩み、貢献できる力を育成する活動を行います。

学校関係者評価

【学力の向上】 評価 【 B 】

成績優秀者を前年度と比較しても、今後も上下があると思われるので、その年の生徒の学習の定着を注視し、進路実現につなげていってほしい。また、アンケートの肯定的回答率が下降傾向にあるのは、将来に対しての希望の有無にも関係すると思う。小中での躓きの経験から学力的に厳しい状況の生徒が多いため、学ぶ意欲が低く、将来への展望を持つことができない生徒が多くなっていると思われるので、それを打破する活動が必要になってくる。

【社会性の育成】 評価 【 A 】

社会に出て仕事ができるための、基礎学力であり、社会性の習得なので、課題の多い生徒の指導であるとは思うが、大切なものなので引き続き取組の継続が必要である。ただ、マンネリ化しないような工夫も必要となる。また、肯定的回答率100%であることや、学校行事への出席率増加、人前での発表ができるようになった点は成果である。

【チーム学校】 評価 【 A 】

よい取組が展開されている。生徒の育成は、学校以外の面も大きく影響するため、困難なことも生じると思うが、引き続きの取組を望む。また、休暇等については取得できており、ストレスの少ない職場環境は極めて良好である。ただ、定時制ゆえの対生徒課題があるので、教員の主体的な学びがより必要となり、その時間の確保も働き方改革の一環であることを理解してほしい。

（評価）A：目標を十分に達成　B：目標をほぼ達成　C：やや不十分　D：不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標（評価指標）	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】		見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	**★確かな学力** ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 **★自己の将来とのつながりを見通した学び** ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力（やりぬく力）	義務教育の学び直しを含め、基礎学力の定着を図っている。 ①基礎的・基本的な知識及び技能 ・成績優秀者（4.3以上）の人数増加 R7年度7人以上（後期中間考査まで） ②将来のための勉強をしている生徒の増加 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている。」の肯定的回答80%以上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ・めあてを示して授業を展開し、定期テスト等で一般常識問題が解けるようにする。 ○思考力、判断力、表現力等 ・授業等でICT機器を活用し、自分の意見や考えを表現する場面を設定する。 ○キャリアデザイン力 ・1年次から進路意識の高揚を図り、進路に応じた各種検定取得にチャレンジする。	B	①成績優秀者数 【6月】3人（前中）→【9月】3人（前末） ①成績不振者数 【6月】4人（前中）→【9月】6人（前末） 出席時数不足 ②アンケート：肯定的回答90%（6月）	・全校生徒の55%が時数不足による成績不振となっているので、三者面談で保護者等への協力を依頼する。 ・生徒が進路目標や自己実現目標を考える場面を様々な教育活動内に設定する。 ・3名が成績優秀者であるので、後期はこの状況をさらに向上させるため、日々の授業を大切にする指導を行っていく。	C	①成績優秀者 【12月】3人（後中）→【3月】3人 ①成績不振者の割合 【12月】4人（後中）→【3月】2人 出席時数不足（不登校及び0限） ①出席率 【6月】90.9%→【12月】81.7% ②アンケート：肯定的回答78%（11月）	・0時間目を選択した生徒への目標意識を強める。 ・成績優秀者は昨年度よりも減少し3人となったが、次年度卒業予定者は進路目標をしっかりと立てており、目標に向けての努力ができている。引き続き、基礎学力の定着とともに、進路意識を高める指導を行っていく。
	社会性の育成	**★豊かな心、多様性・包摂性の尊重** ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり（地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む）	学年を越えた人間関係が構築できるよう社会性向上の指導を行っている。 ①他者への思いやり ・「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている。」の肯定的回答80%以上	○他者への思いやり ・学校行事への出席率向上（80%以上）を目指すとともに、生徒の希望や意見を取り入れた企画や運営を行い、学年を越えた協働を促す。 ・面談等でアルバイトと学業の両立の確認を行い、進路意識の高揚に繋げる。	B	①アンケート：肯定的回答100%(6月) ①学校行事への出席率80%	・学校行事には大部分の生徒が参加できているため、今後も継続していく。 ・はた若者サポートステーションと連携し、自己理解及び職業理解等に関するセミナーを11月以降2回実施する予定である。 ・個人面談等で進路意識の向上を図り、進路先を早期決定させていく。	A	①アンケート：肯定的回答100%(11月) ・全員が肯定的回答となった。 ①学校行事への出席率86.9% ・はた若者サポートステーションとの連携の中で、人前で発表をするなど生徒の成長が見られた。	・学校行事等の企画・運営を生徒が主体的に活動できるよう改善した。協働心を養える仕掛けを行っていく。 ・将来の夢や目標をもちにくい生徒が多いため、ジョブカフェ等と連携したキャリア教育を進めていく。
取組項目	地域協働学習	**【取組のねらい】** ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域や関係機関との連携	総合的な探究の時間の取組「ファームプロジェクト」でNPO法人に寄贈する綿花を育て、社会参画や生命の尊さ等を学んでいる。 ①社会参画能力の育成及び地域連携 ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」の肯定的回答60%以上	○社会参画能力の育成及び地域連携 ・はた若者サポートステーションと連携した仲間づくり活動事業を実施し、社会的自立・社会参画能力を育成する。 ・NPO法人と連携した「ファームプロジェクト」を全学年で実施し農作物の栽培を行う。	A	①アンケート：肯定的回答80%（6月） ・NPO法人砂浜美術館との連携事業で株式会社「アバンティ」代表の講話を実施。綿花製造、環境問題に関して学習。同企業に提供する綿花を全学年で栽培・収穫。 ・あったかふれあいセンターにしきの広場「子ども食堂」「なないろカフェ」へ収穫物の寄付。	・各学校行事において、社会参画能力の育成をねらいとした活動を企画し、個性に応じた指導を充実させる。 ・はた若者サポートステーションとの連携授業のほか、要支援の生徒については個別指導・助言を実施していく。	A	①アンケート：肯定的回答89%（11月） ・NPO法人砂浜美術館との連携事業を3回実施。本年度は9kg以上（昨年度は約5kg）の綿花を寄贈した。	・寄贈する綿花の収穫量が昨年度よりも倍増し、生徒の地域貢献心が高まった。NPO法人やサポステ等外部機関との連携をさらに強め、生徒の社会的自立や社会参画に繋げていく。
	教科横断的教育	**【取組のねらい】** ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	様々な生徒に対応したユニバーサルデザインを取り入れた授業を行っている。 ・「物事が計画通りに進まないとき、どうすればいいのかを考え、乗り越えようとしている。」の肯定的回答80%以上	○言語能力・課題解決能力の育成 ・授業評価アンケート（年3回）を行い、教員の指導力向上や授業改善を図る。 ・授業内で情報活用能力を育成する場面（年4回）を設定する。 ・生徒による学校行事の企画運営及び振り返りを行う。	A	アンケート：肯定的回答82%（6月） 第1回ユニバーサルデザインに基づいた授業づくり（生徒授業アンケート）を全学年で実施した。「パワーポイントなど、ICTを使って、学習が分かりやすくなる工夫をしてくれる。」「学習に対する評価をつけてくれる。」という項目では「どちらともいえない」という回答があったが、10問全ての項目において否定的な回答はなかった。	・今年度、残り2回のユニバーサルデザインに基づいた授業づくり（生徒授業アンケート）を実施し「どちらともいえない」という回答部分の改善を行う。	A	・アンケート：肯定的回答89%（11月） ・授業評価アンケート： 肯定的回答98.1%（1月）前回より16.1ポイントの肯定的回答の上昇となった。 「どちらともいえない」という回答が無くなる改善がなされた。10問全ての項目において否定的な回答はなかった。	・全教職員がユニバーサルデザインを意識した授業づくりや指導に努めたことが生徒の高評価に繋がっているため、引き続き授業評価アンケート等を行い教科横断的な教育を進めていく。

		取組のねらい【P】	現状と目標（評価指標）	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】		見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	**★学校の魅力化・特色化** ○働きながら学ぶことや学び直し等、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒の個に応じた支援 ○外部機関や地域の方々と連携した社会性育成及びキャリア教育	多様なニーズや個に応じた支援に努めているが、不安定になりがちな生徒が多数いる。 ・進路実現（卒業生進路決定100%）に向け、サポステ（年4回）やハローワーク（年1回）との連携授業を実施する。 ・学校運営協議会（年2回）を実施する。	・サポステやハローワークとの連携授業を計5回以上実施し、個別面談等において1年次から進路意識の高揚に努める。 ・学校運営協議会において定時制の強みや弱みについて検討を行い、伸長や改善についての協働体制づくりを進める。	B	・はた若者サポートステーションとの連携授業を9月までに2回実施した。 ・学校運営協議会にて、強みである「少人数でアットホームな雰囲気」を生かしていくこと、また、弱みである「自己肯定感の低い生徒」への対応を確認した。	・はた若者サポートステーションとの連携授業のほか、支援が必要な生徒に対しては個別指導の充実を図るとともにSC・SSWの相談体制を構築させることで対応していく。 ・授業や学校行事等で、小さな成功体験を積み重ね、その成功を承認する。	A	・はた若者サポートステーションとの連携授業（4回）を実施し、生徒自身の自己理解や社会性の育成を行った。 ・「子ども食堂」「なないろカフェ」へ収穫物の寄贈した。 ・砂浜美術館に、綿花を寄贈した。 ・学校運営協議会（年3回）実施。	・サポステ等の外部機関との連携により様々な職種や職業を知る機会を得て、進路実現100%に繋がった。1年次から進路意識を高揚させ、NPO法人砂浜美術館との連携等で生徒の地域貢献意識や郷土愛を育成していく。
	不祥事防止	**★教職員の倫理観の堅持** ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	教職員が孤立することがないよう風通しの良い職場づくりに努める。 ・校内研修の実施回数（年3回） ・不祥事防止委員会の実施回数（年12回） ・ハラスメントについての理解度及び法令遵守の意識100%	・個人情報の漏洩等に繋がらないよう机の周りの整理整頓に努める。 ・配付文書の封入や送付については複数の教職員で確認する。 ・不祥事防止に関する自己研鑽に努める。	A	・主任管理主事による不祥事防止研修実施。 ・全教職員がハラスメント対策研修動画を閲覧した。 ・県教委からメッセージが流れた日には、昼礼で全員に確認する。 ・不祥事防止委員会を月1回実施している。	・不祥事防止に関する研修を年度末までに最低あと2回実施する。 ・調査書等、封入の際には必ず複数の目で確認する等、不祥事が発生しない工夫を進める。 ・不祥事を自分事として認識させる。	A	・不祥事防止校内研修を3回実施した。 ・不祥事防止委員会を12回実施している。（8月は紙面開催） ・県教委からメッセージを、昼礼で全員に口頭で投げかけ、お互いに確認をしあうように仕向けることができた。	・不祥事防止に向け、「自分事」として捉えお互いに声を掛け合い、より良い職場環境・人間関係づくりを全教職員でさらに構築していく。
	働き方改革	**★長時間勤務の解消** ○国が定める労働時間の厳守 ○教職員のワークライフバランスの調整 ○職務の質の向上と健康の増進 ○会議資料のペーパーレス化	分掌業務等について、誰もが対応できるよう横と縦の連携を強化し、良好な人間関係が構築された職場づくりをさらに推進する。 ・年次有給休暇の取得（年10日以上） ・時間外勤務の削減（20時間以内/月） ・職員会議資料やアンケート等のICT化	・年休届、教職員業務記録簿の管理や点検をしっかりと行う。 ・休暇等を計画的に取得できるよう、全教職員が行事予定等の把握に努める。 ・月1回の定例職員会を開催し、業務等の早めの企画・立案と情報共有を図る。	A	・特別休暇や年休の取得については、計画通りにできている。 ・長時間勤務者は年度当初から9月まで0人であり、目標通り達成できている。	・行事等の案を早めに提案し、分掌を越えた業務の平滑化を進める。 ・年休等が取りにくい状況にならないよう、分掌等の業務を日頃から複数で対応できるようにしておく。	A	・特別休暇・年休の取得については計画どおりに実施できており、ストレスのない良好な職場づくりにつながっている。 ・すべての月で時間外勤務がなく、当初の目標を達成できた。 ・生徒の出欠記録表をシステム化することで担任の確認時間が大幅に削減された。	・縦横の連携の取れた職場環境・人間関係が構築されており、ストレスのない勤務や休暇等の取得に繋がっている。今後も適切なコミュニケーションを図りながらより良い環境づくりに努める。